

令和6年6月13日

令和5年における山岳遭難の概況等

警察庁生活安全局生活安全企画課

1 概要

(1) 全国の発生状況

令和5年の山岳遭難は

○ 発生件数	3, 126件	(前年対比+111件)
○ 遭難者	3, 568人	(前年対比+62人)
うち死者・行方不明者	335人	(前年対比+8人)
負傷者	1, 400人	(前年対比+94人)
無事救助	1, 833人	(前年対比-40人)

であった。

過去10年間の山岳遭難発生状況を見ると、増加基調で推移していたのが、令和元年から2年連続で減少したものの、令和3年以降は増加に転じ、昨年引き続き統計の残る昭和36年以降最多となった。

(2) 都道府県別の発生状況

都道府県別の山岳遭難発生状況を見ると、最も多いのが長野県302件、次いで東京都214件、北海道212件であった。

(3) 遭難者の多い主な山岳別遭難状況

山岳別の遭難者数を見ると、観光地として有名な富士山や高尾山等の遭難者が増加した。

2 特徴

(1) 目的別・態様別

遭難者3, 568人について、目的別にみると、登山（ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む。）が77.4%と最も多く、次いで山菜・茸採りが9.4%を占めている。

また、態様にみると、道迷いが33.7%と最も多く、次いで滑落が17.3%、転倒が16.9%を占めている。

(2) 年齢層別

遭難者のうち40歳以上が2, 850人と全体の79.9%を占め、また、60歳以上が1, 762人と全体の49.4%を占めている。

また、死者・行方不明者では、40歳以上が307人と全体の91.6%を占め、60歳以上が225人と全体の67.2%を占めている。

(3) 単独登山者の遭難状況

単独登山（「山菜・茸採り」、「観光」等を含む。）遭難者1, 423人のうち、死者・行方不明者は205人で、14.4%を占めており、複数登山（2人以上）遭難者の死者・行方不明者の割合（6.1%）と比較すると8.3ポイント

ト高くなっている。

(4) 訪日外国人の遭難状況

訪日外国人の山岳遭難は、発生件数100件、遭難者数145人（うち死者・行方不明者が11人）で、いずれも平成30年の統計開始以降、最多となった。

(5) 通信手段の使用状況

発生件数3,126件の75.0%が遭難現場から通信手段（携帯電話、無線機（アマチュア無線を含む。））を使用し、救助を要請している。

3 山岳遭難防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生していることから、遭難を防ぐためには、次に掲げる点に留意する必要がある。

○ 的確な登山計画と万全な装備品等の準備

気象条件や体力、技術、経験、体調等に見合った山を選択し、休憩時間を確保した余裕のある登山日程、携行する装備、食料等に配慮し、安全な登山計画を立てる。

登山計画を立てるときは、滑落等の危険箇所や、トラブル発生時に途中から下山できるルート（エスケープルート）等を事前に把握する。

また、常に最新の気象情報を把握するとともに、登山予定の山の気候に合った服装や登山靴、ヘルメット、雨具（レインウェア）、ツェルト（簡易テント）、地図（登山地図アプリを含む。）、コンパス、行動食等登山に必要な装備品や、万一遭難した際に助けを呼ぶための連絡用通信機器（携帯電話、無線機、予備バッテリー等）を準備するなど、装備を万全に整える。

GPS機能付きの携帯電話等は、自分の現在地をより速やかに救援機関に伝えることができるなど、救助要請手段として有効であるものの、多くの山岳では通話エリアが限られることやバッテリーの残量に注意する必要がある。

なお、単独登山は、トラブル発生時の対処がグループ登山に比べて困難になることが多いことを念頭に、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

○ 登山計画書・登山届の提出

登山計画書・登山届は、家族や職場等と共有しておくことにより、万一の場合の素早い捜索救助の手掛かりとなるほか、計画に不備がないか事前に確認するものであることを認識する。また、作成した登山計画書・登山届は、一緒に登山する仲間、家族や職場等と共有するとともに、登山口の登山届ポスト、インターネットや登山地図アプリを活用して都道府県警察、自治体などに提出する。

○ 道迷い防止

地図の見方やコンパスの活用方法を習得し、登山には地図やコンパス等を携

行して、常に自分の位置を確認するよう心掛ける。

なお、登山地図アプリと紙の地図を併用することで、より正確な位置を把握することができるため、道迷いの防止につながる。

○ 滑落・転落防止

日頃から手入れされた登山靴やピッケル、アイゼン、ストック等の装備を登山の状況に応じて的確に使いこなすとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

また、滑落・転落するおそれがある場所を通過するときは、滑落・転落や上方からの落石に備え、必ずヘルメットを着用する。

○ 的確な状況判断

霧（ガス）や吹雪等による視界不良や体調不良時等には、道に迷ったり、冷静さを失ったりして、滑落等の危険が高まることから、「道に迷ったかも。」と思ったら、闇雲に進むことなく、今歩いて来た道（トレース）を辿り、正規の登山道まで引き返すなど、状況を的確に判断するとともに、早めに登山を中止するよう努める。

○ バックカントリースキーによる遭難に注意

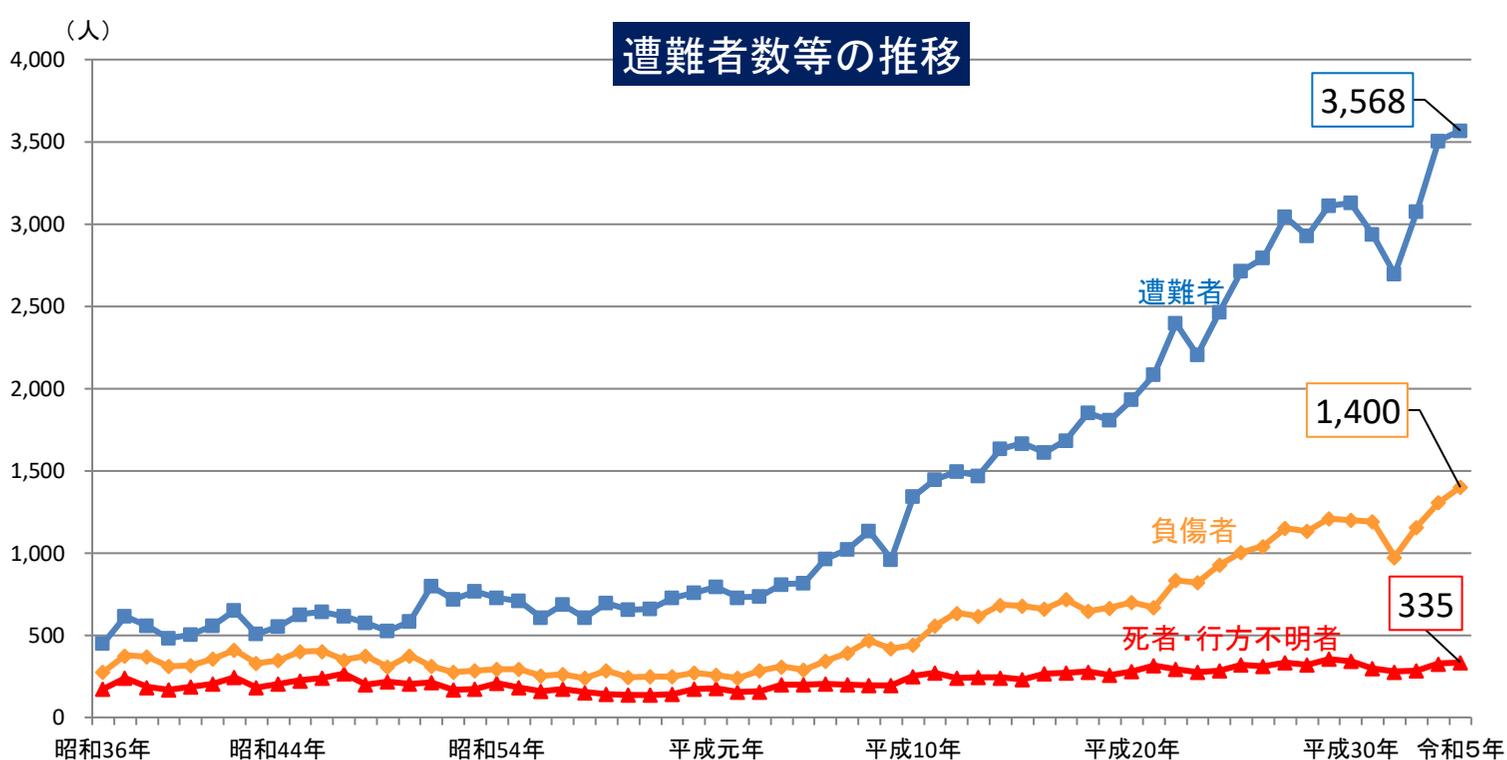
バックカントリースキーは、冬山登山と同様の知識・技能・装備が必要であることから、安易な行動は厳に慎む。

また、天候や積雪の状況、滑走するコースや地形を必ず確認し、登山計画書・登山届の提出、必要な装備品を携帯するなど、事前の準備を徹底する。

注：％は、小数点以下第2位を四捨五入（表1～9においても同じ。そのため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合がある。）。

表1 概要

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	
											構成比
発生件数(件)	2,293	2,508	2,495	2,583	2,661	2,531	2,294	2,635	3,015	3,126	
遭難者数(人)	2,794	3,043	2,929	3,111	3,129	2,937	2,697	3,075	3,506	3,568	100.0%
死者・行方不明者	311	335	319	354	342	299	278	283	327	335	9.4%
死者	272	298	278	315	298	267	241	255	301	293	8.2%
行方不明者	39	37	41	39	44	32	37	28	26	42	1.2%
負傷者	1,041	1,151	1,133	1,208	1,201	1,189	974	1,157	1,306	1,400	39.2%
無事救出者	1,442	1,557	1,477	1,549	1,586	1,449	1,445	1,635	1,873	1,833	51.4%



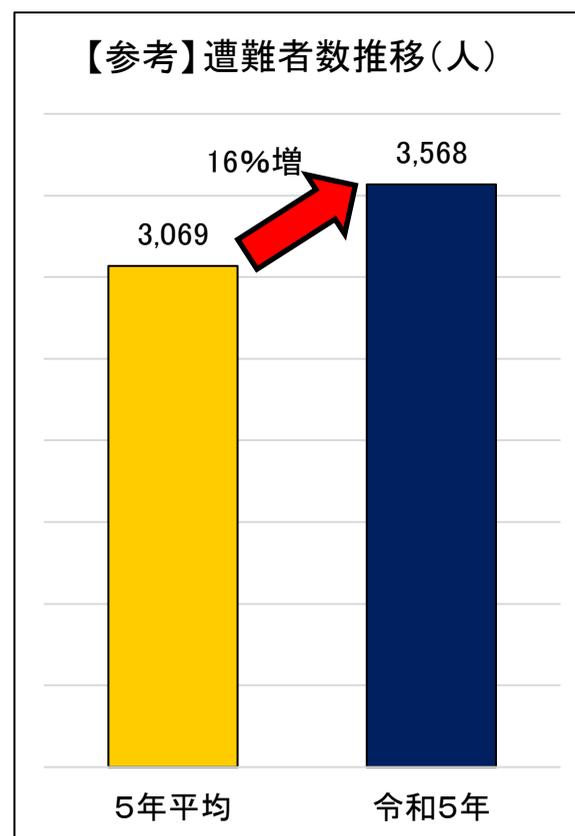
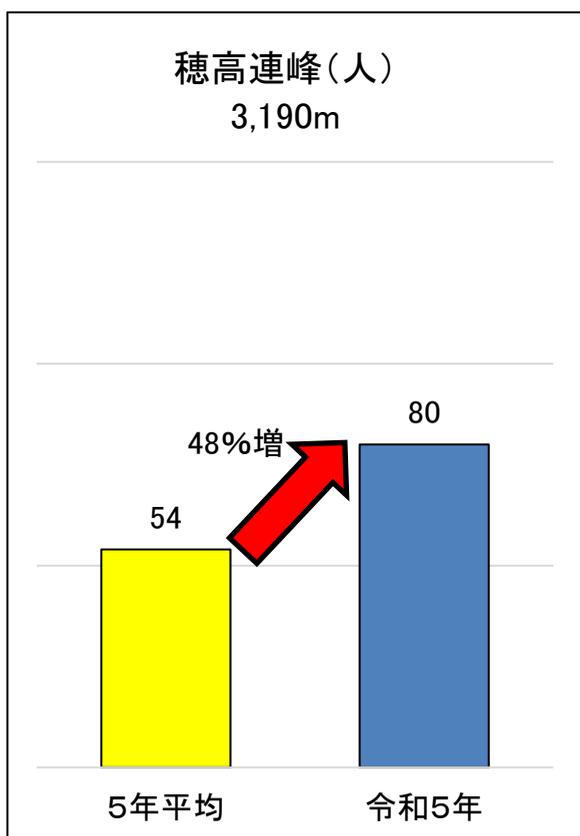
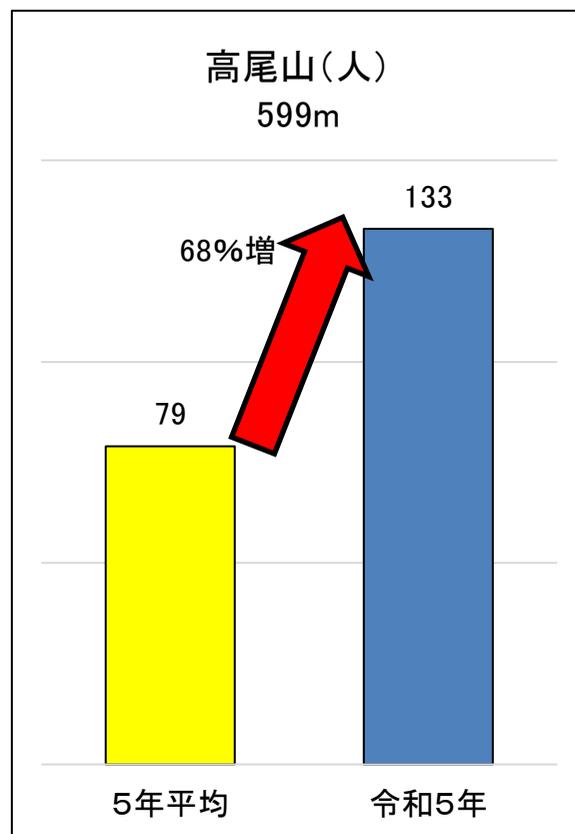
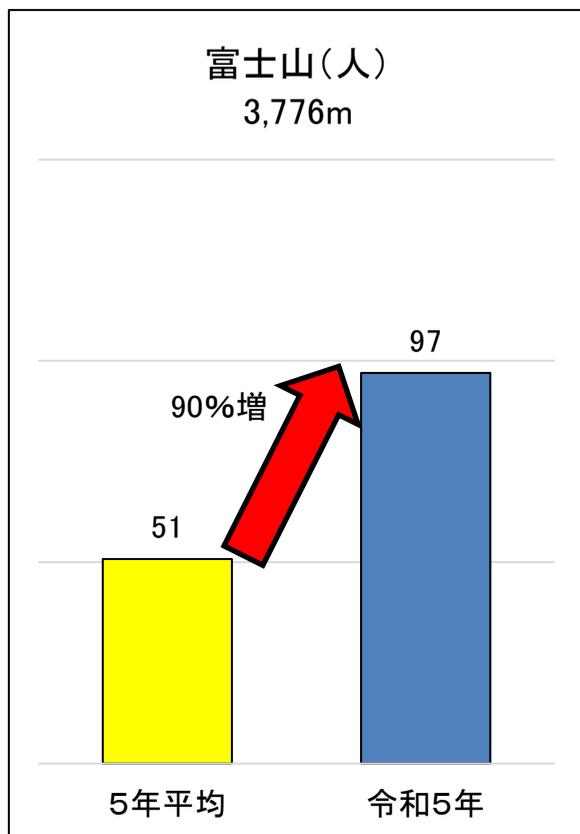
注:「遭難者数」には、昭和51年から無事救出者を含む。

表2 都道府県別山岳遭難発生状況

(令和5年)

都道府県	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				
		死者	行方不明者	負傷者	無事救出	
北海道	212	245	26	7	80	132
青森県	81	92	9	4	21	58
岩手県	63	73	7		40	26
宮城県	20	22	1		6	15
秋田県	49	55	12	1	8	34
山形県	68	75	9	1	27	38
福島県	66	72	5		38	29
東京都	214	233	16		107	110
茨城県	29	32	1		15	16
栃木県	72	82	10	1	35	36
群馬県	147	159	12		91	56
埼玉県	94	107	8		49	50
千葉県	22	29	3		3	23
神奈川県	179	204	14	1	71	118
新潟県	126	144	13	2	49	80
山梨県	145	157	18	2	73	64
長野県	302	332	37	3	160	132
静岡県	129	150	8	2	41	99
富山県	134	144	6	1	79	58
石川県	28	33	2	1	14	16
福井県	24	28	3	2	13	10
岐阜県	133	143	18	4	61	60
愛知県	45	49	4		13	32
三重県	57	69	7		22	40
滋賀県	87	97	8	1	40	48
京都府	26	31	1		8	22
大阪府	16	26		1	8	17
兵庫県	120	145	7		57	81
奈良県	55	70	3	3	19	45
和歌山県	13	19			4	15
鳥取県	41	48	3		27	18
島根県	8	8			5	3
岡山県	16	22			11	11
広島県	34	45	4		7	34
山口県	16	20			7	13
徳島県	14	16	2		2	12
香川県	2	2			1	1
愛媛県	19	21			8	13
高知県	7	9			2	7
福岡県	55	71	3	1	19	48
佐賀県	6	7			3	4
長崎県	17	22	3		3	16
熊本県	18	20	3		5	12
大分県	45	57	2	2	18	35
宮崎県	22	26	2		8	16
鹿児島県	41	47	3	2	20	22
沖縄県	9	10			2	8
合計	3,126	3,568	293	42	1,400	1,833

表3 主な山岳別遭難状況



注:「5年平均」は、平成30年から令和4年までの5年間の平均としている。

表4 目的別山岳遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
登山	2,315	2,223	2,038	2,395	2,726	2,761	77.4%
登山	2,022	1,902	1,681	1,995	2,333	2,365	66.3%
ハイキング	161	159	233	260	248	224	6.3%
スキー登山	54	70	43	48	38	66	1.8%
沢登り	47	57	42	50	47	70	2.0%
岩登り	31	35	39	42	60	36	1.0%
山菜・茸採り	385	360	381	346	319	334	9.4%
その他	429	354	278	334	461	473	13.3%
観光	141	62	33	49	70	86	2.4%
作業	43	36	38	46	52	57	1.6%
溪流釣り	25	41	40	37	47	38	1.1%
写真撮影	23	15	13	23	28	28	0.8%
自然観賞	13	12	22	18	23	30	0.8%
山岳信仰	4	8	4	6	12	19	0.5%
狩猟	5	9	6	13	11	6	0.2%
スキー	86	94	52	46	75	80	2.2%
その他	73	66	65	79	73	101	2.8%
不明	16	11	5	17	70	28	0.8%
合計	3,129	2,937	2,697	3,075	3,506	3,568	100.0%

目的別山岳遭難者構成比の推移

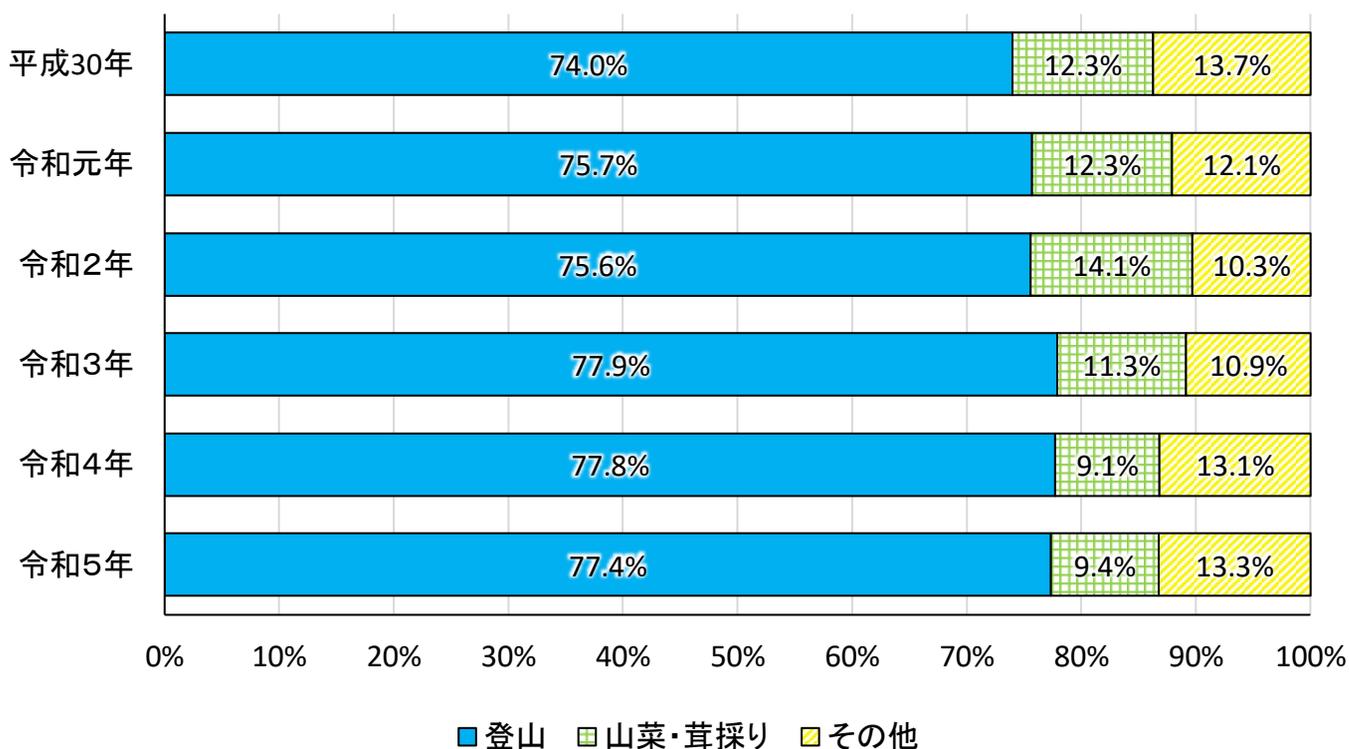


表5 態様別山岳遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
道 迷 い	1,187	1,142	1,186	1,277	1,280	1,204	33.7%
滑 落	544	485	423	496	578	617	17.3%
転 倒	468	492	371	510	602	604	16.9%
病 気	276	205	188	218	285	308	8.6%
疲 労	237	219	170	204	286	324	9.1%
そ の 他	417	394	359	370	475	511	14.3%
転 落	100	88	93	79	98	112	3.1%
悪 天 候	39	15	27	32	34	37	1.0%
野生動物襲撃	18	62	39	27	38	45	1.3%
落 石	11	10	8	15	10	21	0.6%
雪 崩	5	9	8	11	13	20	0.6%
落 雷		3				1	0.0%
鉄 砲 水				1	58		
有 毒 ガ ス						1	0.0%
そ の 他	149	135	105	124	153	170	4.8%
不 明	95	72	79	81	71	104	2.9%
合 計	3,129	2,937	2,697	3,075	3,506	3,568	100.0%

態様別山岳遭難者構成比の推移

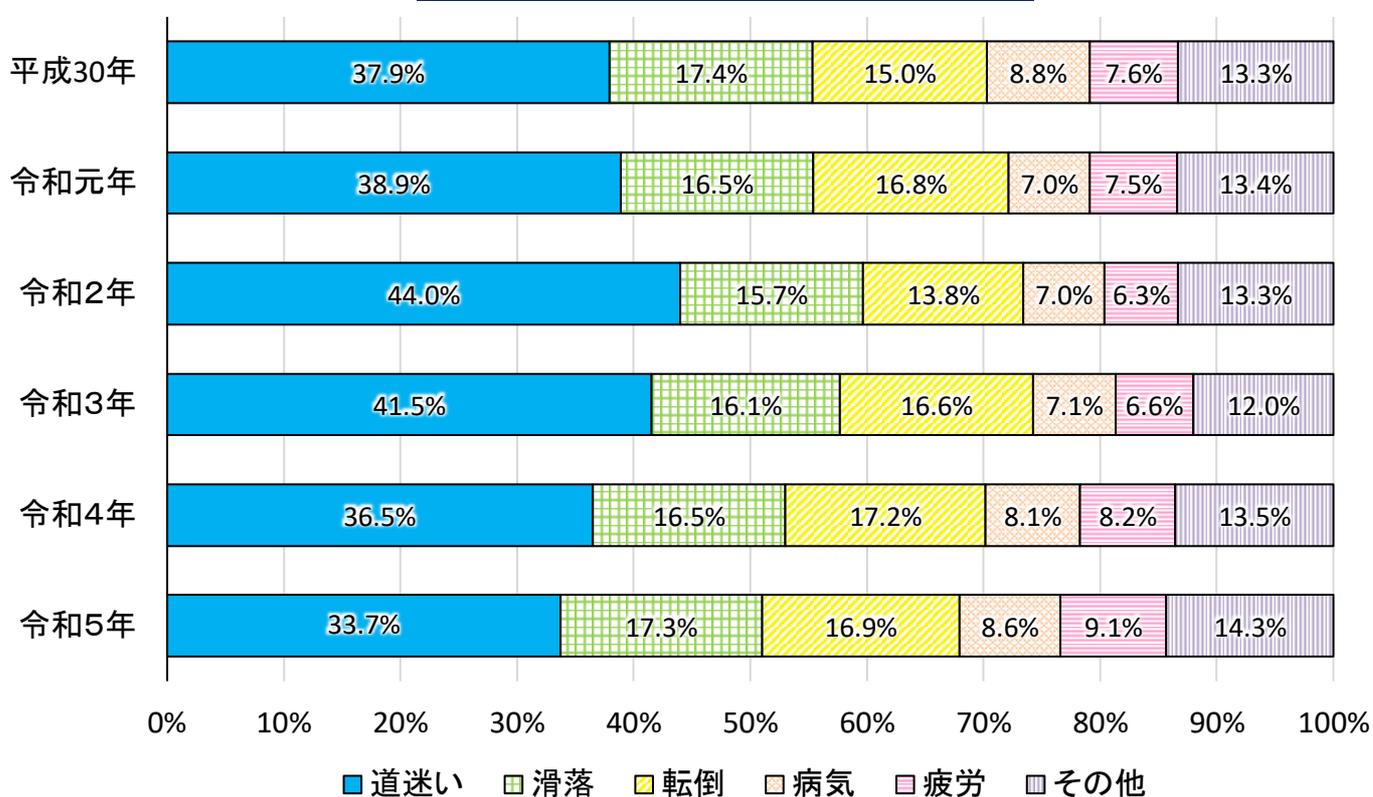


表6 年齢層別山岳遭難者

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	176	137	154	186	154	195	5.5%
20～29	216	207	194	247	296	268	7.5%
30～39	280	258	231	229	258	253	7.1%
40～49	390	396	321	413	406	465	13.0%
50～59	486	451	444	513	562	623	17.5%
60～69	692	640	511	572	708	706	19.8%
70～79	698	668	636	702	823	790	22.1%
80～89	181	173	196	207	236	248	7.0%
90歳以上	10	7	7	5	12	18	0.5%
不明			3	1	51	2	0.1%
合計	3,129	2,937	2,697	3,075	3,506	3,568	100.0%

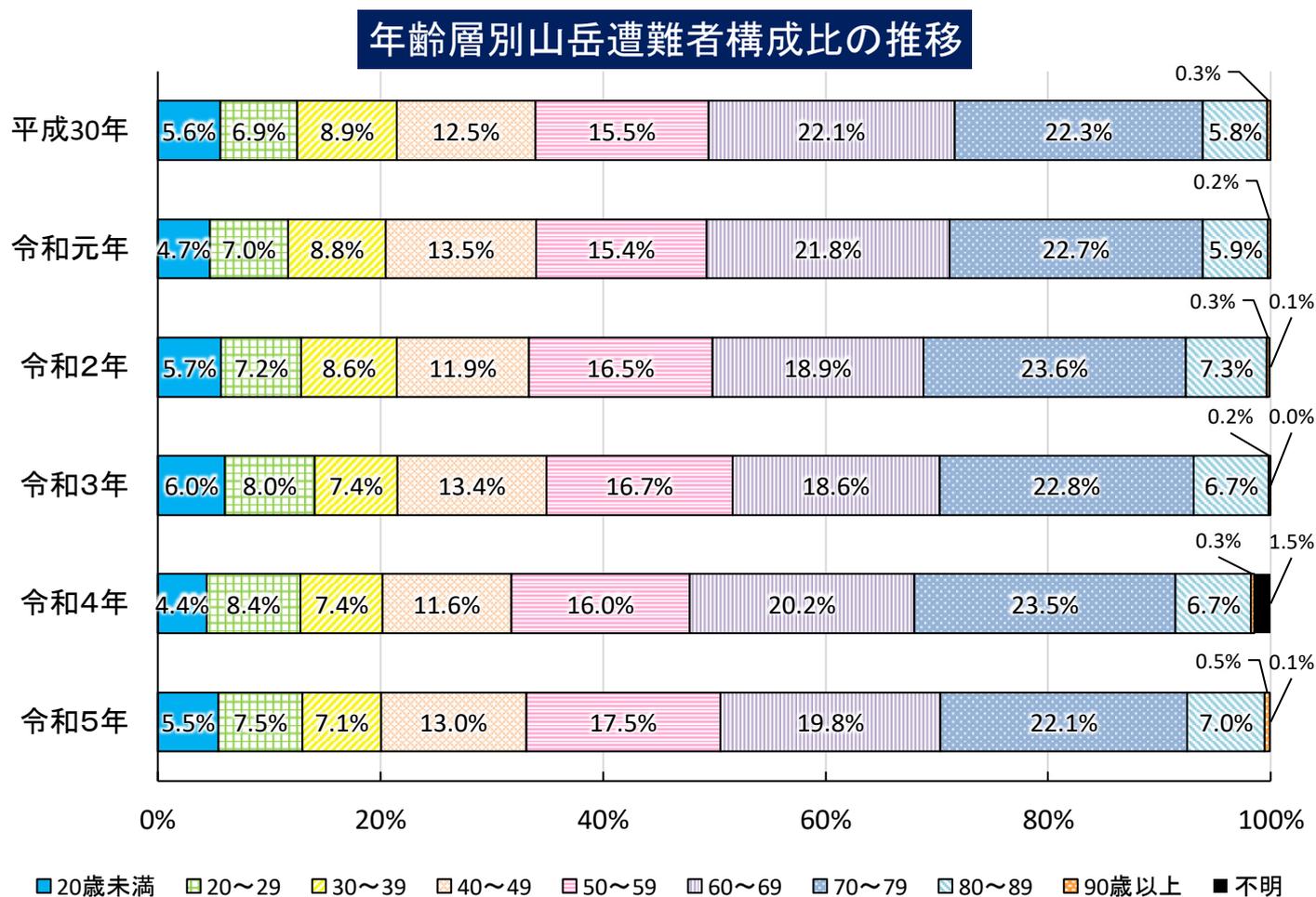


表7 年齢層別山岳遭難者(死者・行方不明者)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
20歳未満	1	2	2			2	0.6%
20～29	3	10	8	6	9	6	1.8%
30～39	13	13	14	13	10	19	5.7%
40～49	37	30	16	24	32	32	9.6%
50～59	42	38	35	36	45	50	14.9%
60～69	101	78	69	61	71	58	17.3%
70～79	110	93	96	102	113	117	34.9%
80～89	32	34	37	39	41	45	13.4%
90歳以上	3	1	1	1	6	5	1.5%
不明				1		1	0.3%
合計	342	299	278	283	327	335	100.0%

年齢層別山岳遭難者(死者・行方不明者)構成比の推移

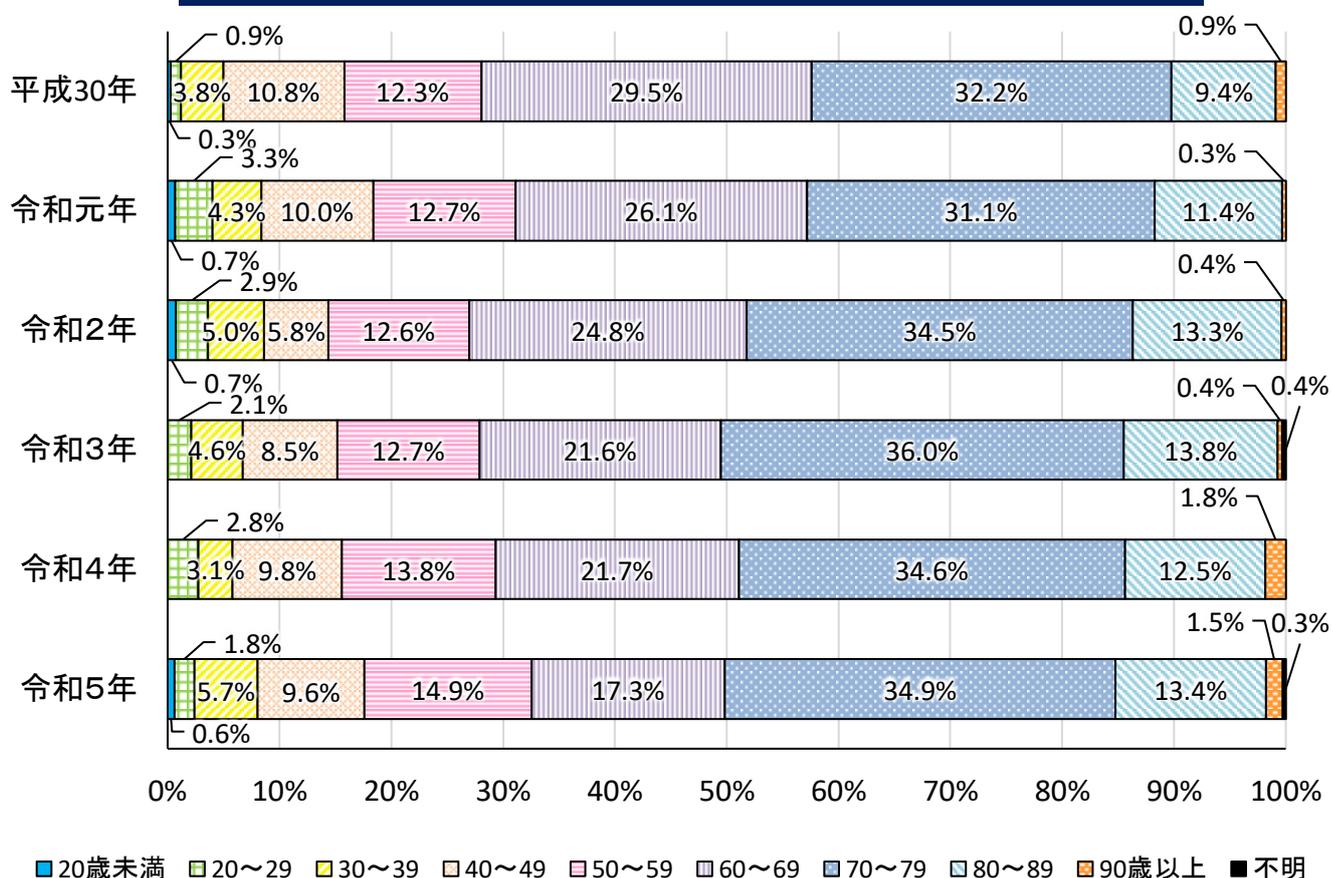
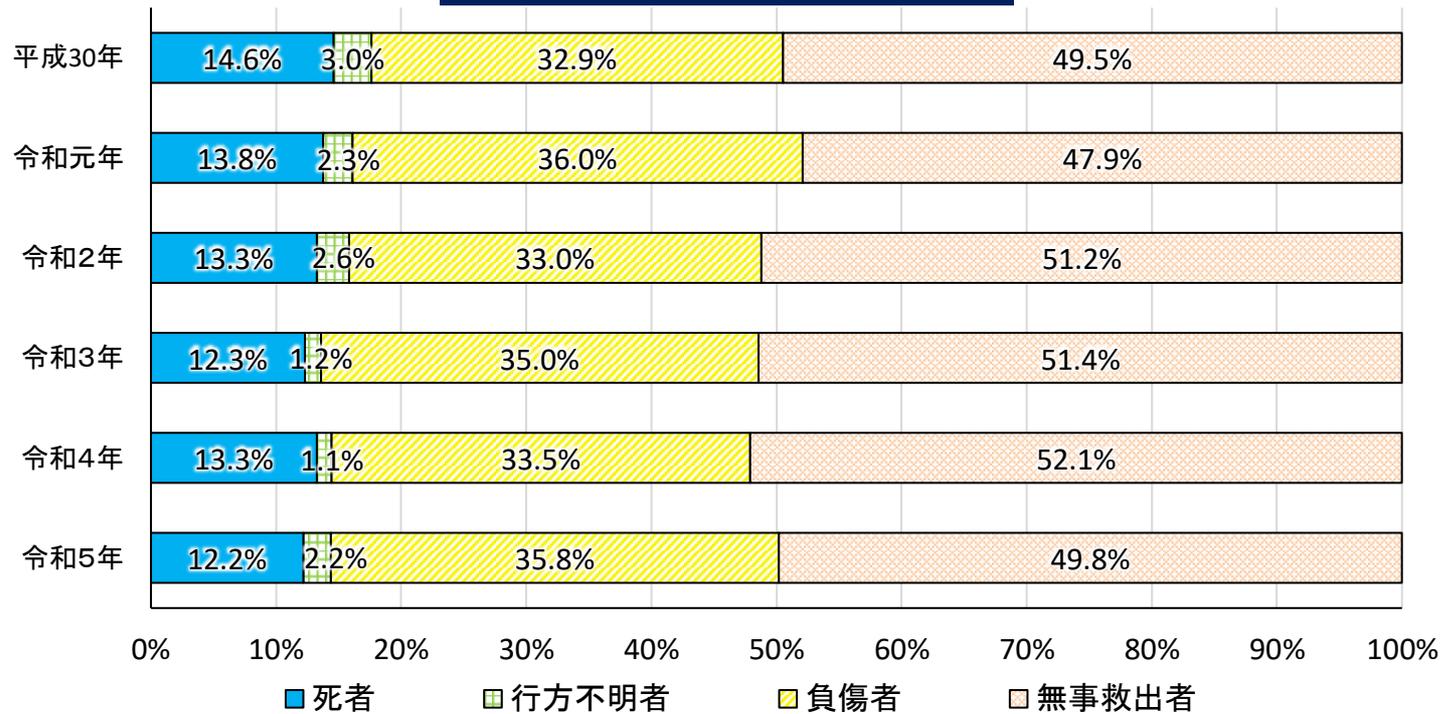


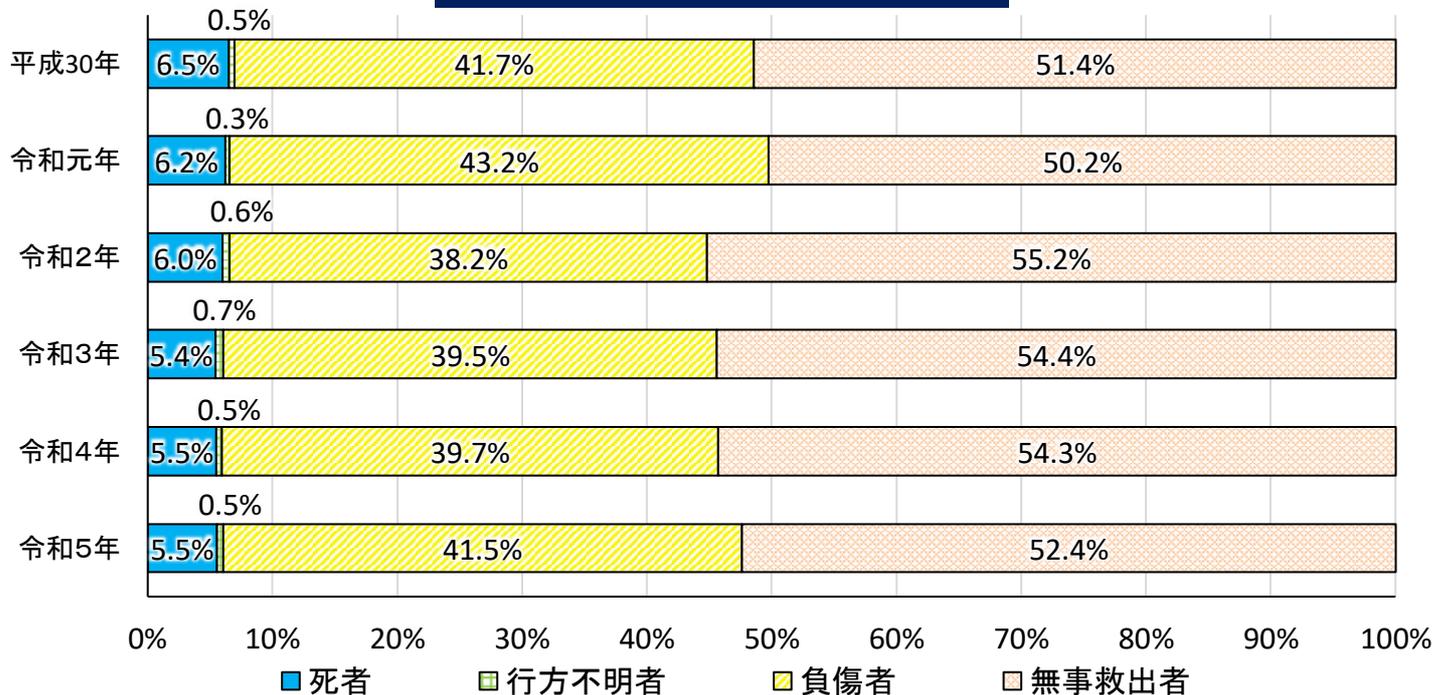
表8 単独登山者の遭難状況

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	構成比
遭難者	1,170	1,117	1,086	1,282	1,394	1,423	
死者・行方不明者	206	180	172	174	201	205	14.4%
死者	171	154	144	158	185	174	12.2%
行方不明者	35	26	28	16	16	31	2.2%
負傷者	385	402	358	449	467	509	35.8%
無事救出者	579	535	556	659	726	709	49.8%
全遭難者に占める単独登山者の割合	37.4%	38.0%	40.3%	41.7%	39.8%	39.9%	

単独登山者の遭難状況の推移



複数登山者の遭難状況の推移

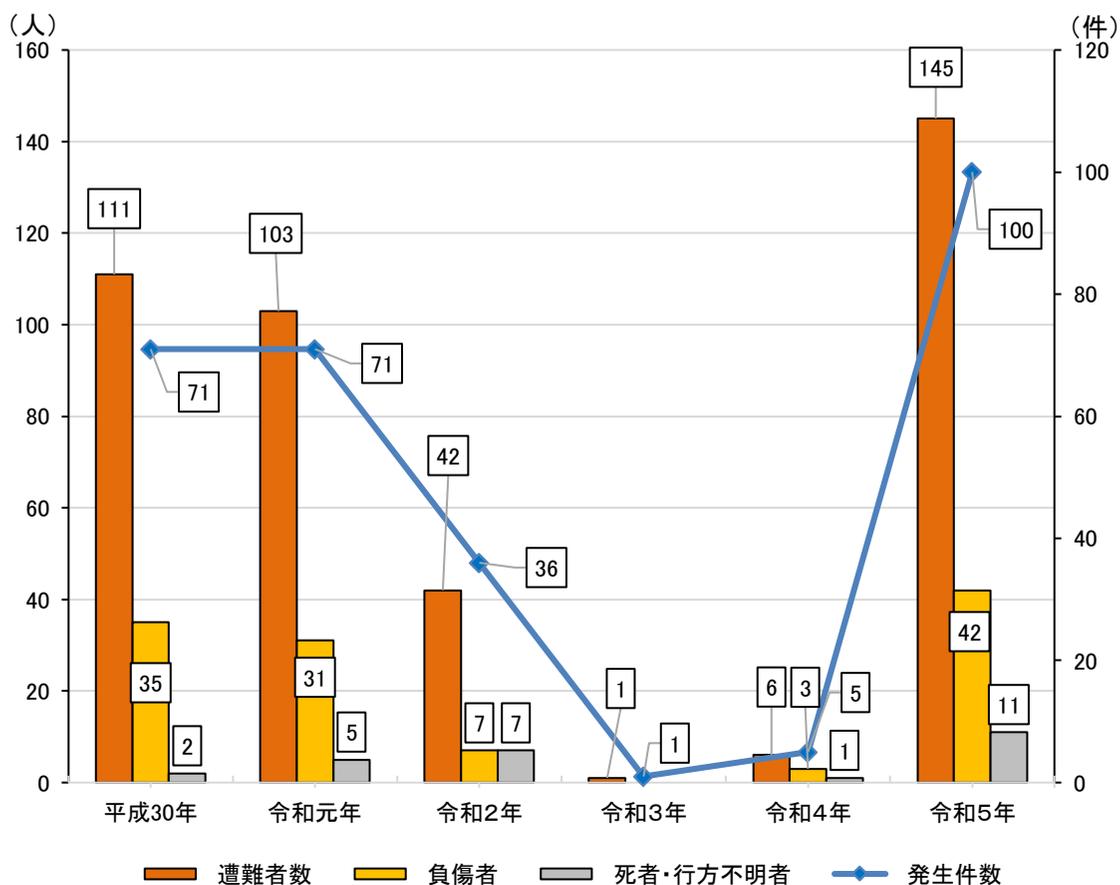


注:この頁における「登山者」とは、目的が「山菜・茸採り」「観光」等の者も含む。

表9 山岳遭難発生件数、遭難者数等の推移(訪日外国人)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
発生件数(件)	71	71	36	1	5	100
遭難者数(人)	111	103	42	1	6	145
死者・行方不明者	2	5	7		1	11
死者	2	5	6		1	8
行方不明者			1			3
負傷者	35	31	7		3	42
無事救出者	74	67	28	1	2	92

山岳遭難発生件数、遭難者数等の推移(訪日外国人)



※ 訪日外国人とは、外国籍を有する者のうち、日本に住所を置く者を除いたものをいう。

表10 通信手段の使用状況

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	
	件数	件数	件数	件数	件数	件数	構成比
発生件数	2,661	2,531	2,294	2,635	3,015	3,126	
使用あり	2,085	1,972	1,837	2,161	2,371	2,345	75.0%
携帯電話	2,071	1,960	1,815	2,142	2,351	2,338	74.8%
無線機	14	12	22	19	20	7	0.2%
使用なし	576	559	457	474	644	781	25.0%

注1：通話エリア圏外、バッテリー切れ等は「使用なし」に含む。

注2：携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。

通信手段の使用状況の推移

